

令和4年5月12日（木）

正和会視察報告

報告者 石川義郎

日時 令和4年5月10日（火）14時から16時

場所 立川防災館

参加者 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、幡垣正生、武藤政義、
串田金八（議席番号順）

目的

新型コロナウイルス感染症の猛威は止まるところを知りません。その中で自然災害や地震は多発しており、防災対策も複雑かつ困難な状況に迫られております。そこで我々正和会は、いつ起こるかわからない災害に備え、改めて防災に対する意識向上及び日々更新される防災対策の理解を深めるために本施設を視察した。



1. 救助救出コーナー

最初に救助救出コーナーにて、リアルな震災現場を再現した空間の中で、震災後の瓦礫の中から救助者を具体的に救出する作業を係員の指導の下で詳細な説明と共に実地体験し

た。倒壊した家屋の中で下敷きになっている人を実際に屋根の上から救助するシミュレーション体験をするものであった。

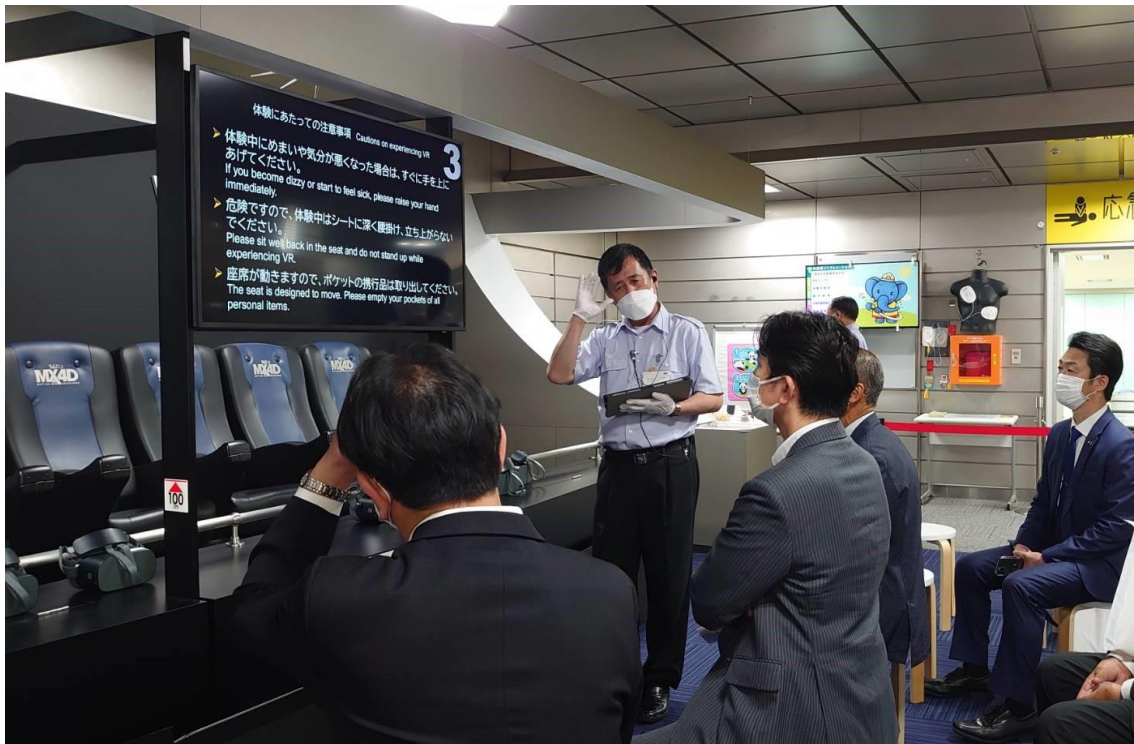


2、防災ミニシアター

続いて防災ミニシアターにて、「命を守るための教え」と題した防災教育動画を視聴した。具体的な内容としては、東日本大震災における「釜石の奇跡」が取り上げられていた。釜石市の小学生は約 3,000 人のうち 99.8 パーセントが津波から避難し無事だったと言われており、平日頃の小さな防災教育の徹底と積み重ねが、いかに大切で、実際に命を守った事例として映像を通じて改めて学ぶことができた。

3、VR 防災体験コーナー

最後に VR（ヴァーチャルリアリティ）を利用した地震、火災、風水害の疑似体験コーナーである。ここは本施設でも最新の防災体験コーナーで実際に専用の椅子に腰掛け VR を装着し、我々も地震と火災バージョンを体験してみたが、まずは家庭内で地震が発生した際のリアルな振動を体感すると同時に VR を通じて家具や食器等が崩壊していく様子や、部屋から逃げ出せなくなる疑似体験をすることにより、地震の怖さを身に染みて実感することができた。続いて火災の疑似体験では家庭内のキッチンで、てんぷら油が引火し消火器をはじめ消化活動を試みるが消化できず、家の中が燃えていく様子を疑似体験するのだが、映像や振動だけでなく臭いや風と言った臨場感にあふれる演出で、火災の恐ろしさを実感することができた。体験後少し気持ち悪くなる程、リアルであった。



所感

今回は正和会として、改めて防災についての意識向上、理解を深めるために立川防災館に視察に行きました。参加したメンバーも常日頃より市民の安心安全のために防災を意識しながら議員活動に勤しんでいるわけではありますが、改めて今回の視察で短時間ではありましたが、新たな学びや気づきを得ることができ、各々が今後の活動に生かし、新たな提案に繋がるものだと思っております。防災は自助、共助、公助と言われますが、やはり自助が最重要で、身近なところから、改めて家族と共に防災準備を再確認することが大切であると再認識しました。その日常の小さな準備と心がけが、いざという時に大きな差となって表れてくる。これからもより多くの人々が少しでも防災意識向上に努め、安心して暮らせるまちづくりを共に育んでいかなければならないと思います。